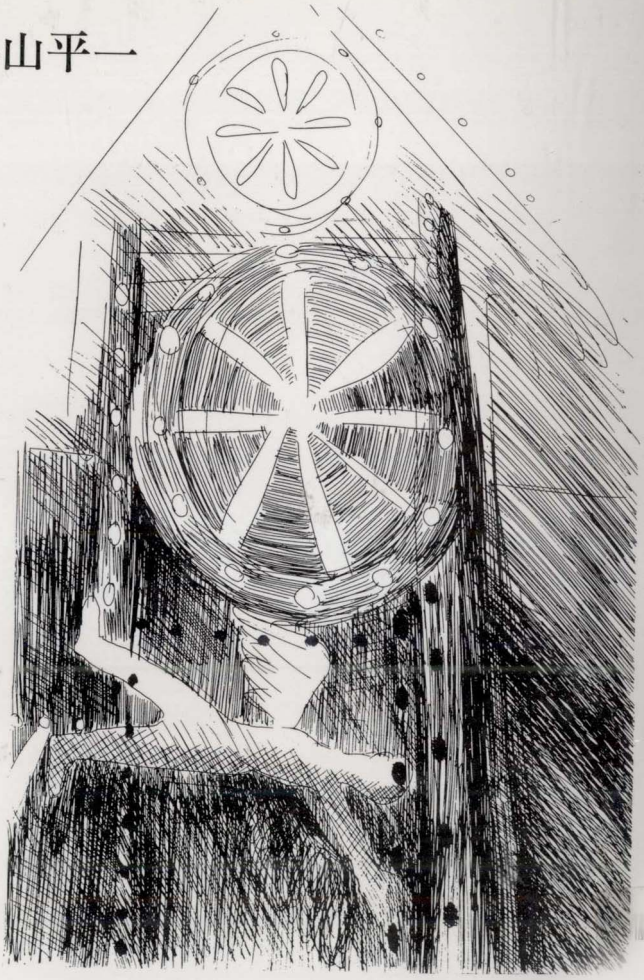
低く翔べ

杉山平一



著者略歴

大正3年（1914）福島県会津若松市生まれ。昭和12年東大文学部美学科卒。帝塚山学院短大名誉教授。詩誌「四季」同人として早くから詩作をはじめるとともに、数多くの映画評論を手がける。第2回中原中也賞、第10回文芸汎論詩集賞受賞。著書『夜学生』『ミラボー橋』『ぜぴゅろす』『映画芸術への招待』『映像言語と映画作家』『詩への接近』『詩のこころ・美のかたち』『映像の論理・詩の論理』など。

低く翔べ　　定価1,200円

昭和62年12月10日　初版第1刷発行
昭和63年2月10日　　第2刷発行

著　者　杉山平一
発行者　森村　稔
発行所　株式会社リクルート出版
東京都中央区銀座8-3-7　伊勢半ビル　〒104
電話 03-575-5416(代表)

印刷所
製本所　杜陵印刷株式会社

©1987 Heiichi Sugiyama, Printed in Japan

ISBN4-88991-100-6 C0095 ¥1200E

乱丁本・落丁本は
お取替え致します

低く翔べ

杉山平一

リクルート出版

目

次

此为试读,需要完整PDF请访问: www.erton

お喋り 11

腹を立てる12 ／ カンニング13 ／ こころ16 ／ 教える19 ／ あの世とはどこ22 ／ ジョン・レノンの死んだ日25 ／ お喋り28 ／ 大道芸30 ／ もじり34 ／ 犬吠える36 ／ 記録38

好奇心 41

お節介42 ／ 好奇心47 ／ 彌次馬51 ／ タテマエの裏57 ／ 若者の笑い62 ／ 水清ければ魚住まず65 ／ 隅の席69

遠近法 75

都会の孤独76 ／ 文学者の直観80 ／ 詩人の貧乏83 ／ 「愛する」ということ88 ／ 我慢すること

93 ／ 改革迫られる幸福96 ／ 「視覚」で考える映像時代99 ／ 遠近法102

裏と表

107

タダ108 ／ わが子の自慢109 ／ ねたみ111 ／ 犬もし語らば113 ／ クイズ114 ／ なかったことにする115 ／ 親の顔116 ／ 解説民族118 ／ 鞄119 ／ インキ120 ／ 視点を変える121 ／ 欠落123 ／ 四捨五入124 ／ さがす125 ／ 裏と表127

中流意識

129

赤の消失130 ／ 動物愛護131 ／ 低く翔べ133 ／ きみは老人をみたか135 ／ 眉目秀麗136 ／ 日本的138 ／ 土産とは何か140 ／ 天気予報141 ／ 電話143 ／ 人間同士144 ／ 建前146 ／ 中流意識

148 ／ 大衆 150

低い声

音 154 ／ 思索の車輪 155 ／ 健康 156 ／ 生態系 158 ／ 花は食べられぬ 159 ／ 誇張せよ 160 ／ 見つめられる 164 ／ 男と女 166 ／ 低い声 168 ／ 正直という嘘つき 171 ／ かたちと心 173 ／ 言葉は生きる 175 ／ セリフと言葉 177 ／ 詩とフィクション 180

153

余白

教科書の詩 186 ／ お子様ランチへの反抗 187 ／ 所有権 189 ／ 愁い顔 191 ／ ストップモーション 192 ／ 現場 194 ／ 余白 195 ／ 映像と理屈 197 ／ モンタージュ 199 ／ 漫才と詩 200 ／ 引用盗作 202 ／ 寺山修司 204

185

大阪弁 207

伝統 208 ／ 愚作 209 ／ 文学碑 211 ／ 近親憎悪 213 ／ 鏡 214 ／ 映画館 216 ／ いらち 218 ／ 本の分類 219 ／ 阪急古書のまち 221 ／ 町人学者 223 ／ なにわ塾 225 ／ 大阪文学出版 227 ／ 大阪弁 229

悪口 231

世辞 232 ／ 結婚 233 ／ 旅行 234 ／ 毛皮 234 ／ 悪口 235 ／ 太陽 236 ／ 賢そうな顔 237 ／ 男のつらさ 238 ／ 名づける 239 ／ 男女区別 240 ／ 女らしく 241

あとがき 243

初出一覧 247

低く翔べ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

お喋り

腹を立てる

文人や政治家の肖像写真を撮る写真家が、ある作家のいい顔を撮った感想に、いろいろ失礼なことをいって、怒らせてうつしました、というのがあった。怒らせるといい顔になる、というのをきいて、私は、なるほどと思った。

たしかに、怒ると、気力充実してくるものである。腹が立って歩いていると、歩き方にいきおいがついてきて、速くなったり、そのくせ少しも疲れない。

眼は光り、顔面はひきしまり、声も大きくなる。血液が活発に体内を循環しているらしい。

ところが、ニコニコヘナヘナしているときは、顔面はゆるんでしまう。日曜日、電車のなかで、家族づれのお父さんの顔を見ると、平和というより、ゼンマイのほどけたような顔をしている人が多い。それが月曜日になると、ひきしまった顔をして職場に向かい、別人のように職場で立ち振舞っている。

怒るのは、しかし、ただの緊張とはちがう。好ましいことではないのに活気が溢れて、なんとなくいきいきしてくる。「バカヤロー」などと怒鳴ったり、恥も外聞も忘れて気持いいことであろう。とにかく、怒ると人間は「元気」になる。

怒るのは、意志が障害にあったり、気持がぶつかったりしたとき、その矛盾、障害をはねとばそうとして起こるエネルギーであろう。

私は、願をかけるお百度廻りとか、仕事をやり遂げるために好きなものを絶つなどというのが、何のためなのか、わからなかったが、どうも、障害や苦しみを、自らに課すことによって、この怒りに似たエネルギーを生み出そうとするのだと、気がついた。

フンドシをしめてかかるとか、鉢巻きをぎゅっとしめるとか、いうのも、その軽い応用であろう。

円満具足はどうも人間を眠たくさせるようである。自ら、敵をつくること、お腹を空かせること、苦痛を与えることで、元気になる。

すぐ怒ったりする人とはつき合いたくないし、そんな人は嫌いだが、自分のことになると、腹を立てているときのパワーの充実は、やはり快いのである。

カンニング

「カンニング」というフランス映画があったが、最後に、歯に受信器を埋めこみ、校外から無線で通信を送り込む新鋭機が登場するものの、殆んどのカンニングは、洋の東西を問わず、

小さなメモを袖にかくしたり、ズボンにかくしたり、似たりよったりである。

小さなメモにぎっしり書き込んであるのを見ると、これだけ勉強するなら、こんなことしなくても、と思うが、このごろ、コピーの縮写ができるようになったので、コピーのカンニングペーパーを作るらしい。

私の関係した女子大などでは、カンニングを挙げるのは、女性の監督者が多かった。男性は、つい大目に見たり、気付かなかったりするが、女性は、女性同士のためか、するどく、またきびしい。

見つかると、他の学科まで零点にされ、留年になることもあるが、女子大などでは、父親があやまりにきて、何卒、学籍簿には載せないでほしい、嫁入りに差支えるから、などといわれたこともあった。

アメリカ映画の「ペーパーチェイス」というのは、ハーバード大学の、弁護士資格に直結する法律学科の学生を描いていたが、そのきびしさには吃驚した。広い階段教室だが、席がきまっていて、教卓には、顔写真つきの座席表が貼ってある。教授は、それを見ながら「ミスター・ブラウン」とか「ミスター・ケンウェル」などとつぎつぎ指名して質問を浴びせ、答えさせてゆく。

ところが、一人の主人公は、そのきびしさに反抗して、答えようとしない。すると教授は、手招きして、近くへ呼び寄せ、ポケットからコインを出して彼に渡し、

「これで、あそこの公衆電話で故郷のお母さんに電話して、弁護士になるのはあきらめた、といってきなさい」

という。なんとも、にくい叱り方だった。学生たちはノートの貸し借りもしない。きびしく特定の仲間だけに限っている。授業の成績が職業に直結しているからである。

その点、女子大は、卒業の単位だけの問題である。それでも、答案が出来ないと、他人のを覗きたくなるのが人情である。

こんなことをいうのは不謹慎だが、女子大生の盗み見する目つきは、流し目のように色っぽいものである。

車掌が定期券の不正を見つけるのは、定期券を見るより、本人の顔つき、挙動で見破ることが多いそうだが、カンニングでも、学生の顔つきで判断することが多い。

つまり不正をしようとする人は、監督者の動静、視線を絶えず気にしているからである。何気ない風で、監督者の顔を、伺ってばかりいるのは、怪しいと思う。

先日も、ある試験の監督をしていると、私の顔をしきりにチラチラと見る学生がいる。そ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton